令和７年度
自己点検・評価報告書

令和８年３月３１日現在

学校法人大原学園
専門学校西日本昴自動車工科大学校

（令和８年７月 24 日作成）

目　　次

基準１　教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント .. 1

1-1　教育理念、目的及び目標の設定等 1
1-2　職業教育のマネジメント体制の整備 2

基準２　教育課程、教育の実施、学修成果 3

2-1　教育課程の編成と授業科目 3
2-2　教育課程の実施 5
2-3　単位・卒業認定 7
2-4　学修成果目標の達成状況 8

基準３　学生の受入れ、学生支援 10

3-1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理 10
3-2　多様な学生に対する修学支援 11
3-3　学生生活に関する支援 12
3-4　学生の自主的な学習等の促進に対する支援 13

基準４　教員・教育実施組織 14

4-1　教員の配置、募集、採用 14
4-2　教員の組織編制等 15
4-3　教員の資質の向上 16

基準５　教育環境 17

5-1　教育環境の整備点検、改善等 17
5-2　安全対策、防災組織 18

基準６　教育活動の基盤と情報の公表 19

6-1　中期事業計画と財務基盤 19
6-2　学校運営 20
6-3　社会からの理解と情報の公表 21

自己評定（達成度）について

＜３段階＞
３：基準を満たしており、特筆すべき取組を行っている
２：概ね基準を満たしている
１：基準を満たしておらず改善が必要

基準１　教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント

1-1　教育理念、目的及び目標の設定等

自己評定（達成度）
2

参照資料
各種書籍、大原学園ホームページ、中期計画、学則、コースガイダンス資料等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
1-1-1　教育理念等を踏まえ、当該専門学校として、目的及び目標を設定し、学科（コースを設置している場合はコースごと）ごとに育成する人材像を明確にしていること。	①当該専門学校の教育理念を踏まえた目的、目標が適切な決定過程により設定されているか ②設置している課程（学科、コースを設置している場合はコースごと）ごとに目的、目標、育成人材像が具体的に示されているか ③当該専門学校の教育理念、目的、目標と学科等ごとの目的等との関連性が明確になっているか ④また、入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、卒業認定方針との関連性が明確になっているか ⑤教職員、学生、社会に対して教育理念等が十分に周知・公表されているか	学園の教育理念、目的、目標、育成人材像が具体的な言葉で明文化されており、「就職」と「資格取得」において一定の成果を残し、有為な産業人を育成することができている。 全国に多数の学校を設置している法人であるが、教育理念などは大原学園ホームページなどで広く周知・公表されており、全教職員に浸透している。	就職実績及び資格取得実績のさらなる向上を図るとともに、実務教育の充実に向けて、社会の動向を的確に見極め、ニーズの調査・分析をふまえた事業計画を組んでいる。	目まぐるしく変化する教育内容へのニーズをよりスピーディーに調査・分析し、教育に反映させる柔軟な体制強化を進める必要がある。

1-2　職業教育のマネジメント体制の整備

自己評定（達成度）
2

参照資料
事業計画書、運営会議議事録

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
1-2-1　職業教育を推進（教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上等）するために必要なマネジメント体制（以下「職業教育のマネジメント体制」という。）を整備し、有効に機能していること。	①当該専門学校の目的を実現するために、学校内に具体的に職業教育を推進するための組織体制を整備しているか ②職業教育のマネジメント体制は有効に機能しているか	校長を中心とした運営体制のもと、運営会議、学科会議、教育課程編成委員会等を設置し、教育課程の企画・運営・改善を組織的に行っている。また、資格取得状況や就職実績、学生アンケート等を活用し、教育活動の検証と改善に取り組んでいる。	教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会を通じて、業界ニーズや外部からの意見を教育内容に反映する体制が整備されている。 一方で、社会や業界の変化に対応し、教育内容へより迅速に反映できる仕組みの強化が必要である。	企業・業界との連携をさらに強化し、教育課程編成委員会等で得られた意見を迅速に教育課程へ反映する。また、教育成果の分析と情報共有を充実させ、継続的な教育の質の向上を図る

基準２　教育課程、教育の実施、学修成果

2-1　教育課程の編成と授業科目

自己評定（達成度）
2

参照資料
事業計画書、ディプロマポリシー、学生便覧　大原ホームページ

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1　学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	①教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ②教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ③当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	各コースで人材育成に関する目標を設定し、スケジュール管理表で実施状況と成果をチャックしている。チェック後は次年度の管理表修正に活用している。	各コースで実施する科目別の定例試験の結果を年度別で管理比較し履修状況が確認できている。また、検定試験に向けての対策については、検定結果を基に適宜修正が行えている。	引き続き、卒業までの教育スケジュールについて、改善を継続する。
2-1-2　教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注）職業実践専門課程】	①職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ②上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	産業界及び地域社会と連携し、学校評価及び教育課程編成委員会を設置し2回/年会議を実施している。	特にありません。	引き続き外部委員との会議を通して、学校運営の改善を進めます。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3　外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を 300 時間以上開設していること。 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	①外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を 300 時間以上開設しているか ②該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	日本人と合同で授業を実施しているが、留学生が入学定員の 50%を超えており、300 時間の授業時間の確保が難しいため、外国人キャリア形成プログラムは申請を取り下げる予定。	日本人入学者の増加が課題	留学生の比率が 50%以下になった際は申請を予定している。

2-2　教育課程の実施

自己評定（達成度）
2

参照資料
ディプロマポリシー、学生便覧　大原ホームページ

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1　授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	①各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ②授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ③学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取組んでいるか ④成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正かつ厳格に行っているか ⑤成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	自動車分野 教科書に合わせてオリジナルのプリントを作成し授業を効率よく進めている。 日本語分野 日本語のレベル別教科書を使用し、各クラスの日本語レベルに応じた対応を行っている。 授業の最後に理解度テストを実施し、学生の理解度を個別で管理し、適宜サポートを行っている。また、授業開始時に前回の学習内容を確認するため、授業開始前に学生は復讐をする習慣を身につけさせている。	自動車分野は教材が完成したばかりであるため、適宜更新を行う必要がある。 日本語分野は認定日本語学校の申請に向け現在新たな教材に移行中である。 一部の学生で自宅等による予習と復習が身に着いているが、他の学生は定例試験前にのみ学習を行う傾向が強い。	各分野で教材の更新を継続し、学生の理解度が深まる教材に更新する。 理解度テストの点数を高く維持することで、定例試験の成績が伸びていると実感できる。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2　企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 　また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	①職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ②連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ③連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	①企業数社と連携を行っている。 ②設定している。 ③協力体制を整備している。	最新技術の学習に貢献している。	特にありません。

2-3　単位・卒業認定

自己評定（達成度）
2

参照資料
ディプロマポリシー、学生便覧、大原学園ホームページ

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1　学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	①あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	卒業認定方針に基づき、履修状況、出席状況及び成績評価により適正な卒業認定を行っている。	卒業認定基準が明確であり、学生へ周知されている。	卒業認定方針の周知徹底と適正運用を継続する。

2-4　学修成果目標の達成状況

自己評定（達成度）
2

参照資料
学生便覧、大原学園ホームページ

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1　卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力（資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。）の学生の修得状況を把握し、評価していること。	①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力（資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。）の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	各コースで卒業認定方針を設定することと合わせて、各クラスで資格取得スケジュールを基に学習を進め、検定合格や卒業認定基準を上回る指導体制を構築している。	目標に対する指導スケジュールが明確で、学生の理解度テストで進捗確認が行えるため、合格基準に達していない学生のサポートが行える。	引き続き、学習成果が上がらない学生の対応を継続する。
2-4-2　学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	①学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ②卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ③卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	学校内での企業説明会や進学ガイダンスを実施し、進路決定のサポートを行っている。就職希望者に関しては、例年100%の就職率を達成している。 進学に関しては、大学、専門学校など学生の興味関心にあった進学先に入学ができるようにサポートしている。 企業連携講習では卒業生からの具体的な仕事内容等を踏まえた講座を実施し職業教育の効果を高めている。また、企業や関係団体から授業等に関する意見交換会を2回/年実施授業内容の改定に活用している。	留学生の進学指導については、日本語力が大きく影響するため、日本語力の向上が課題。	留学生が受験する日本語能力試験の各級合格を目指し指導を継続する。また、卒業時点最低でもN4を取得できるように指導を行う。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	④卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか			

基準３　学生の受入れ、学生支援

3-1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理

自己評定（達成度）
2

参照資料
募集要項、入学案内パンフレット、大原学園ホームページ、学生管理システム資料

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-1-1　入学者の受入方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	①卒業認定方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて学生の受入れ方針を定め、求める学生像や入学者に求める水準等を明確に示しているか ②また、選抜方法及び手続をあらかじめ公表した上で、所定の選抜基準及び体制のもとで適切かつ公正に入学者を選抜しているか	入学者受入方針を定め、募集要項等を通じて公表し、公正な選考を実施している。	選考基準が明確で公平性が確保されている。 一方で、少子化による志願者減少への対応が必要である。	学校の特色や教育成果に関する情報発信の強化に取り組む。
3-1-2 学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。 【注)修学支援新制度機関要件の確認】 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	①入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しているか	入学定員に対する入学者数については、現在適正である。	少子化と外国人材の活用の状況を確認しながら定員については注視している。日本人希望者が減少しているため、留学生の割合も適宜検討する必要がある。	日本人入学者の確保については、自動車業界の実情を伝える機会を継続して実施する。

3-2　多様な学生に対する修学支援

自己評定（達成度）
2

参照資料
大原学園ホームページ

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-2-1　適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生の修学に関する支援を行っていること。	①障がいのある学生、海外からの留学生等多様な学生に対して必要な配慮、支援を行っているか	日本語学科では留学生を受け入れている。日本語学科卒業後の進路として、自動車整備士コースがあり、日本で生活する上でのマナーや習慣も学ばせている。	自動車整備業界が外国人人材を積極的に採用していることもあり、日本での就職も実現している。	法務省の規定変更や座龍資格の更新、変更については引き続きサポートを継続する。
3-2-2　特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されていること。 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	①特に、外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置する専門学校においては、海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されているか	自動車整備コースでは日本人と同じクラスで授業を実施している。 留学生に関しては、資格外活動（アルバイト）の管理を徹底し、法令違反とならないように指導を行っている。 留学生に関しても就職希望者は全員就職ができている。	日本での就職を希望する留学生が多くいるため、外国人材受け入れに関する情報収集は適宜行う必要がある。	各企業との打ち合わせを継続し、外国人人材の受け入れについて情報交換を継続する。
3-2-3 学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	①学生が就学を継続するための経済的側面に対する支援体制を整備し、情報の提供及び相談について適切に周知、運用しているか	留学生については、学費面で支援を行っている。	特にありません。	留学生の学費支援については、学習が継続できるよう支援を継続する。

3-3　学生生活に関する支援

自己評定（達成度）
2

参照資料

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-3-1　カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	①学生生活等に関する相談体制を整備し、相談対応について、十分、学生に対して周知し、機能、活用されているか	スクールカウンセラーの配置まではできていないが、担任と関係職員によるサポート体制は機能している。個別面談等で個々の悩みを聞く機会を設けている。 留学生に関しては、通訳を介しての面談ができるよう外部業者と提携している。	コミュニケーションがとり辛い学生も増えているため、一定の知識を持った担当者に相談ができる環境の整備を検討する。	メンタルヘルスに関する研修を定期的に行い、職員のスキルの知識向上にも取り組む。
3-3-2　学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	①定期的な健康診断の実施、結果のフォロー、健康管理に関する啓発活動など、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用しているか	健康診断については、学内にて受診ができる環境を整え、全生徒が受診している。	特にありません。	引き続き学生の健康管理について適切に運用する。

3-4　学生の自主的な学習等の促進に対する支援

自己評定（達成度）
2

参照資料

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-4-1　学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	①自主学習等に対する相談対応と学習支援 ②成績不振の学生の状況把握と指導 ③留年及び休学者の状況把握と対応 ④退学希望者の状況把握と対応	自習の学習ができる環境と学習資料の提供、質問対応などを実施している。 成績不振者に対しては放課後や長期休暇を利用した補講を実施している。 上記対応により留年者は殆ど発生しないが、病気等による休学に関しては個別対応としている。 退学希望者の状況把握は担任と授業担当職員が適宜、学生との面談や授業中のコミュニケーションで把握し、チームで対応している。	成績不振による退学者が一定数発生している。	引き続き学習意欲の低下が発生しないような、授業運営と学生と教員のコミュニケーションを継続する。
3-4-2　正規の授業時間以外に行われる、課外活動など学生の自主的な活動を充実させるため、適切に支援していること。	①部活動などの実績と支援の実施 ②ボランティア活動の実績と支援の実施	学生による地域イベントへの参加を行っている。また、地域の清掃ボランティア活動を実施している。	地域との連携が強くなっている。	計画的イベント参加とボランティア活動を行えるよう、年間スケジュールを作成する。

基準４　教員・教育実施組織

4-1　教員の配置、募集、採用

自己評定（達成度）
2

参照資料
大原学園ホームページ（教職員求人票、情報提供資料）

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-1-1　教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員について、採用基準等を整備し、適正に配置していること。	①法令上の基準を遵守し、学校の目的を実現し、目標の達成するための教育を十分に実施できるだけの教員を配置しているか	採用基準は整備され、採用計画に基づき、教員は確保できている。	近年、専門性を有する人材の確保（採用活動）が困難になっており、採用活動における課題となっている。	専門性を有する人材の採用が必要であるため、引き続き、様々な採用ルートを模索していく。

4-2　教員の組織編制等

自己評定（達成度）
2

参照資料
大原学園組織図、事業計画書、業務分掌等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-2-1　学校の目的に応じた教育を実施するために、適切な業務分担、責任体制のもとで分野の区分ごとに、教員の組織体制を整備していること。	①当該専門学校の教育活動を進めるための基本的な組織体制を整備しているか ②組織の責任体制、役割分担が規程等において明確で、連携体制が機能しているか ③当該専門学校の目的等を共有し、達成に向けた協働意欲を醸成するために、教職員組織等の円滑な運営と改善向上に向けた取組を行っているか	学園組織図において基本的な組織体制を整備するとともに、各校の事業計画書及び業務文書等でそれぞれの業務分担を明確にしている。また、教育に関する組織的な連携及び情報共有も行っている。	特になし。	学校内及び学校間でより一層連携し、情報共有が円滑に行われ、目的達成が実現できるように、引き続き体制強化を検討する。

4-3　教員の資質の向上

自己評定（達成度）
2

参照資料
学生アンケート、IST 研修レジュメ

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1　学校の授業の内容及び方法の改善を図るための FD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	①教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ②教育の質の向上に向け組織的なファカルティ・ディブロットメント活動に取組んでいるか	定期的に学生アンケートを実施するほか、上司の講義聴講等により専門性、指導力の把握・評価を行っている。	特になし。	今後も教員の資質向上を図るため、企業研修や外部研修への参加、自己啓発素材の提供等をより充実させていく。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。 【注）職業実践専門課程】	①職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的に行っているか	企業等と連携した教員研修を実施し、各学科が目指す資格試験の制度や業界ニーズに対応する教育が実践できるよう、教員の資質向上に努めている。	特になし。	今後も教員の資質向上のための企業研修や外部研修参加の機会を、より充実させていく。
4-3-3　教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。 【注）職業実践専門課程】	①職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的に行っているか	企業等と連携した教員研修を実施し、各学科が目指す資格試験の制度や業界ニーズに対応する教育が実践できるよう、教員の資質向上に努めている。	特になし。	今後も教員の資質向上のための企業研修や外部研修参加の機会を、より充実させていく。

基準５　教育環境

5-1　教育環境の整備点検、改善等

自己評定（達成度）
3

参照資料
竣工図、各種法定点検報告書等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
5-1-1　専修学校設置基準及び関連法令に基づき、教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。（補修、更新含む）	①当該専門学校における教育課程を実施するために必要、かつ十分な施設と、学生数、教育内容、教育方法に対応するための設備を整備し、十分活用しているか、 ②施設、設備について適宜点検し、計画的に改修、補修等を適切に行っているか	適宜メンテナンスを行っている。業者等との連絡体制が明確になっており、適切な維持管理体制を整備している。また、時代に即した実習設備への入れ替え等を行っている。	特になし。	計画的な校舎改修計画、教育設備入れ替えならびに予算の確保を行う。

5-2　安全対策、防災組織

自己評定（達成度）
2

参照資料
防災マニュアル（学校安全計画）、保守・警備契約書、連絡体制書類等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
5-2-1　学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、火災の発生及び大規模災害発生時並びに授業中の安全管理等において、適切に対応しているか	防災マニュアル（学校安全計画）を準備し、職員より各クラスで災害発生時のルール確認と防災訓練を行い、災害に備えている。 また、備蓄品等の整備も行われている。	学園本部主導で防災マニュアル（学校安全計画）の策定に関する研修は実施している。校舎の構造特性などにより災害時の対応は異なるため、火事と地震に分けて研修を実施している。	行政からの指示等を踏まえ、現状に合わせた防災マニュアルの見直しを適宜行う。 また、教職員を対象とした初動対応訓練等の研修を継続して実施し、対応力の向上を図る必要がある。

基準６　教育活動の基盤と情報の公表

6-1　中期事業計画と財務基盤

自己評定（達成度）
3

参照資料
中期計画書、事業報告書、計算書類等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-1-1　当該専修学校の中期事業計画又は設置法人の中期事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	①当該専門学校の目的を実現するために、実効性のある具体的な中長期的計画が策定されているか ②設置法人が策定している場合は、計画上に当該専門学校における教育等の内容が明確に位置付けられているか ③計画の進捗状況、組織上の役割分担、計画の見直しなど計画の遂行の実効性は十分か	2025 年 4 月 1 日施行（7 年間）の中期計画が策定され、専門学校を含む学校種別に明確な計画（目標）が示されている。 また、事業報告を通じて、進捗状況や課題等も共有されており、必要に応じて見直しを図ることができる体制にある。	特になし。	今後も引き続き、学生・受講生の成長と成功、教職員の成長及び働きがいの向上、並びに学園の健全かつ安定的な経営のそれぞれにおいて、高次元で調和の取れた学校運営を推進する必要がある。
6-1-2　当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。【注)修学支援新制度機関要件の確認】 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	①中期事業計画を実行し、当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか、不十分な場合は改善に向けた計画を策定しているか	十分な財務基盤が確立されている。	18 歳人口については、令和 8 年度以降、緩やかな減少傾向が見込まれており、今後は、少子化の進行に伴う入学対象者の減少への対応が、学園運営上の重要な課題になるものと認識している。	引き続き、社会及び学生ニーズの分析を徹底し、更になる教育サービスの質的向上に取り組む。

6-2　学校運営

自己評定（達成度）
3

参照資料
大原学園組織図、理事会・評議員会議事録、各種研修資料等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-2-1　学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	①当該専門学校の全体の運営について、事務組織体制を整備し、業務分担、責任体制が明確になっているか ②教員と職員による連携体制を確保しているか ③校長による意思決定及び執行管理が適切に行われているか	意思決定システムが確立されており、学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。 また、その内容は全体朝礼およびイントラネットやグループウェアにて速やかに告知するとともに各部署で周知徹底している。	特になし。	運営方針の教育現場への浸透度合いについては、継続的に点検する必要がある。
6-2-2　学校運営に必要な知識・技能等を身に着け、意欲及び資質を向上させるためにSD（Staff Development）活動などの取組が行われていること。	①学校運営を適切かつ効果的に行うため、学校の管理運営や教育活動等に関わる教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための組織的に研修の機会を設けるなどの取組みを行っているか	本部及び事業部単位で、教職員に必要とされる研修や自己啓発の機会が継続的に提供されている。また、学校単位でも、企業等と連携し外部講師を招いた講習・研修を積極的に取り入れている。	特になし。	時代や社会的ニーズに応じた適切な研修や自己啓発の機会を設け、引き続き、継続的に実施する。

6-3　社会からの理解と情報の公表

自己評定（達成度）
2

参照資料
大原学園ホームページ等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-3-1　当該専修学校の教育活動、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表し、継続する教育機関、産業界、自治体等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。	①自己点検・評価結果をはじめ、公表が求められている教育情報について適切に公表し、説明責任を果たしているか ②当該専門学校の教育内容等が社会から理解を得られるように、特に産業界等への積極的な取組が行われているか ③教育課程の編成、実施など実践的な職業教育の展開、改善・向上に向け、継続する教育機関（高等学校等）、産業界、自治体等からの意見を積極的に聴取し、活用しているか	法令に従い、大原学園ホームページ等に、教育情報や財務情報等が適切に公表されている。	設置する学校数が非常に多いため、見易さを改善する必要がある。	大原学園ホームページのＴＯＰから、必要な情報に直感的にたどり着けるようにページ構成を検討する。また、検索機能の充実を図る。

自己点検・評価報告書

令和8年3月31日現在

専門学校西日本昴自動車工科大学校
日本語学科

（令和8年7月24日作成）

責任者　三好　一哉
記載者　小林　恒彦

１．教育理念・目的等

日本社会の新しい担い手として、政府は日本国への外国人受け入れにつき明確な指針を示している。自由貿易協定や経済連携協定の枠組みの中での外国人労働者の受け入れが進み、また政府が「留学生50万人計画」の実現を目指している現状からもその方向性が窺える。

本学科設置も日本社会の国際化の一助となるべく設置されるものであるが、外国人受け入れの推進には良質の教育が不可欠である。とりわけ日本語と日本文化の教育が重要であるが、大原学園グループで培った日本語教育のノウハウを当校に導入することで、向学心溢れる外国人留学生が安心して学び、巣立って行ける学習環境を提供する。福岡県は東京都、大阪府に次いで多数の留学生を受け入れており、昨今、非漢字文化圏出身者の増勢が著しく、日本語教育機関在籍学生の多国籍化傾向が鮮明である。留学生に良質の日本語教育を提供し、日本で活躍できる人材を増やしていくことは、少子高齢化という構造的問題を抱えている日本の産業界において不可欠であり、国の成長戦略に定める日本再興戦略においても、日本企業を支える人材の育成を重視する方針が打ち出されている。日本語教育、更には実践的な職業教育を通じて国際貢献へ尽力することが大原学園の教育目標であり、使命であると考える。

1	1-1　理念・目的・育成人材像は定められているか	評価	5
2	1-2　学校の特色は何か	評価	4
3	1-3　学校の将来構想を抱いているか	評価	4
4	1-4　理念に基づく教育が行われているか	評価	4

【達成度合の評価】 5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

現状・具体的な取り組み／課題

大原学園の建学の精神を「感奮興起」と定め、「感動は感謝を育み、奮闘は成功の一歩となる。興味は才能を開花させ起動で人は自立する。」が具体的な教育理念となっている。教員に対しては「一人ひとりに光を」を教育方針に掲げ、学生ひとりひとりの目標と個性を活かした将来を描けるよう指導にあたっている。これらの教育理念・目的・育成する人材像は、書籍や小冊子として全教職員に配付され周知徹底されている。その教育理念・目的の下で、教職員が質の高い教育を実践し、目指す人材を育成している。

2. 学校運営

5	2-1	運営方針は定められているか	評価	5
6	2-2	事業計画は定められているか	評価	5
7	2-3	運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	評価	4
8	2-4	人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	評価	4
9	2-5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	評価	4
10	2-6	学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	評価	4
11	2-7	危機管理体制は整備されているか	評価	4
12	2-8	施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう整備されているか	評価	4

【達成度合の評価】 5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

現状・具体的な取り組み／課題

意思決定システムが確立されており、学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。また、その内容は全体朝礼およびイントラネットやグループウェアにて速やかに告知するとともに各課で周知徹底している。学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的にその内容と進捗とを確認し、必要ならば支援や計画の修正を行っている。組織および教職員の業務分掌も明確に規定されている。

3. 教職員

13	3-1	教育理念・目的が教職員間で共有されているか	評価	4
14	3-2	教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	評価	4

15　3-3　教職員評価を行っているか　　評価 4

【達成度合の評価】 5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

現状・具体的な取り組み／課題

人材の育成では、職能等級制度やＣ＆Ｄ（Communication & Development）目標管理制度などの人材育成・処遇システムがあり、能力や職位に応じた適切な研修を実施している。特に教育の基盤をなす教員においては定期的・段階的な指導力向上研修を実施している。また、そのための人事関連の規定は明文化され、全教職員に配付されている。

4. 教育活動

16　4-1　カリキュラムは体系的に編成されているか　　評価 4

17　4-2　授業評価の実施・評価体制はあるか　　評価 4

18　4-3　目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか　　評価 4

19　4-4　成績評価は適切に行われているか　　評価 4

20　4-5　資格取得の指導体制はあるか　　評価 4

【達成度合の評価】 5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

現状・具体的な取り組み／課題

入学時より日本での進学に必要な日本語能力習得の必要性を動機付けしている。卒業までの教育期間で行う資格試験などの目標を明確にすることで、学習意欲向上を図っている。　また、スキル習得にあたっては、各種検定試験を目標として、体系的な教育課程を編成している。各科目の教育期間においてもテストなどの実施により学生が習得状況を実感できる機会を設け、「日々成功体験が実感できる」教育課程を作成している。

5. 学生支援

21	5-1	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	評価 4
22	5-2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	評価 4
23	5-3	学生の心身の健康管理・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	評価 4
24	5-4	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	評価 4
25	5-5	保護者と適切に連携しているか	評価 4
26	5-6	卒業生への支援体制はあるか	評価 4
27	5-7	入国・在留関係の指導と支援が適切に行われているか	評価 4
28	5-8	日本を理解するための支援が適切に行われているか	評価 4

【達成度合の評価】 5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

現状・具体的な取り組み／課題
進学指導、健康管理、アルバイト管理等、学生支援の体制が整っており、入国時から生活全般にわたるケアを行っている。学生のシグナルを担任が見逃さずにキャッチし、必要であれば通訳付きでその都度面談等を行い、問題点を把握し早期の解決を図っている。その結果を指導記録にまとめ、上司に報告も行うなどの細やかな指導を実践している。また近隣の大学等との関係も良好で、常に進学に関する情報をキャッチし学生に提供している。

6. 在留管理と生活指導

29	6-1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	評価 4
30	6-2	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	評価 4

31　6-3　我が国の法令を遵守させる指導を行っているか　　評価 4

32　6-4　常に最新の学生情報を把握しているか　　評価 4

【達成度合の評価】　5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

現状・具体的な取り組み／課題
入国後、通訳付きで日本での生活におけるマナーや法律を学ぶ機会を与え、その後は、担任が授業内で生活オリエンテーションを実施している。また、教職員が定期的に学生宅を訪問し、健全な環境で生活できているか確認している。そのほかに、自転車利用に係る道路交通法遵守の指導に取り組んでおり、警察と連携した交通安全教室の実施や、教員による学校周辺での登校指導等を行っている。

7.学生の募集と受け入れ

33　7-1　学生の受入方針は定められているか　　評価 5

34　7-2　学生募集活動は、適正に行われているか　　評価 4

35　7-3　学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか　　評価 4

36　7-4　入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか　　評価 4

37　7-5　適正な定員設定及び在籍者数になっているか　　評価 4

【達成度合の評価】　5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

現状・具体的な取り組み／課題
学生募集においては、接続する教育機関である海外日本語学校及び募集代理人等へ、教育内容・方法等、教育活動の情報提供を積極的に行っている。また、学校として掲げる理念や目的、育成人材像を正確に伝え、進路選択を行う際のミスマッチが起こらないよう努めている。入学選考では、明確な選考基準に基づいて選考を行っている。

8.財務

38	8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	評価 5
39	8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか	評価 3
40	8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	評価 5
41	8-4	財務情報公開の体制整備は出来ているか	評価 4

【達成度合の評価】 5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

現状・具体的な取り組み／課題
予算計画は理事会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっている。また、予算の執行は運営会議により定期的に状況の確認が行われている。私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査および会計監査を受け、学園運営が法令または寄付行為への遵守性が確保されるように努めており、私立学校振興助成法第１４条３項による公認会計士による会計監査も受け、財務の適正性を確保している。平成21年度からは財務部門から独立した立場である内部監査室を設け、外部監査と連携を取り、財務の適正性を日常レベルから確保するようにしている。

9.法令等の遵守

42	9-1	法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	評価 4
43	9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	評価 4
44	9-3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	評価 4
45	9-4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	評価 4
46	9-5	関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	評価 4

【達成度合の評価】 5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

現状・具体的な取り組み／課題
学校教育法、専修学校設置基準などの関連法令に基づき、学校法人の寄附行為に則り、適切な運営がされており、諸規則集や学則等の文書化を通じて教職員への周知が計られている。個人情報の保護については、平成16年から開始した情報セキュリティ活動の一環として、全面施行の平成18年４月からはプライバシーポリシーを掲げて個人情報保護法の遵守をしている。また、情報セキュリティ委員会が中心となり、運用監査と新たな安全管理措置の追加が行われている。現在、自己点検・自己評価結果はＷＥＢでの閲覧が可能となっている。

10. 社会貢献

47　10-1　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか　　評価 4

48　10-2　学生のボランティア活動を奨励・支援しているか　　評価 3

【達成度合の評価】 5:達成している 4:ほぼ達成している 3:どちらともいえない 2:取り組みを検討中 1:改善が必要

現状・具体的な取り組み／課題
大原の教育は社会的に一定の評価を頂いている。国際交流という観点から地域住民との交流を行うことで、国際社会というテーマに関して地域に認められる活動を行っている。留学生には日本文化を伝えるカリキュラムにおいて日本で生活をすることに対するルールやマナーを身に着けさせることで国際人としての立ち居振る舞いを行える人材として育成をしている。